

「観光地弥彦の新たな観光コンテンツ開発事業」

～ 若者を呼び込む散策コースの提案 ～

新潟経営大学経営情報学部
経営情報学科
准教授 滝沢 憲一

1. 趣旨

弥彦村観光商工課から「今まで彌彦神社近辺だけが中心だった観光から、おもてなし広場～神社への導線ができてきている。今後はそれをさらに伸ばし、環境保護の観点とも絡め弥彦線を利用して来村いただく、また駅前の魅力を発見・開発するようなアイデアが欲しい。」という提案があり、「観光経営入門」の生きた学びとして、若者を呼び込む散策コースの提案に取り組ませていただいた。

2. 事業概要

観光経営に関する座学と並行してフィールドワークの準備を進め、2回のフィールドワークを実施した。1回目は39名の学生がマイクロバス2台で現地へ行き、弥彦駅を出発して学生の感性に任せて歩き回り、できる限り多くの写真を撮った。その後、各自が散策コースの検討を積み重ね、2回目のフィールドワークで検討している散策コースの確認を行った。なお、2回目は加茂駅から電車で弥彦駅へ向かい、行く道中の景色や空気感も取り込むことを狙いとした。締めくくりとして、数か所のスポットを訪れる散策コースのプレゼンテーションを履修者全員が行い、自分のアイデアを簡潔かつ明確に伝えることを学んだ。

各自の考えた散策コースをすべて見たうえで、ひとつの散策コースをまとめ上げることを目的として学生有志を募り、集中的に散策コース作りに取り組んだ。

3. 研究成果

「観光経営入門」履修者の散策コースをもとに、散策コース作りをイチから考え直して導き出された見解は以下のとおりである。

- ① 弥彦の歴史的な建物や街並みが非日常を感じさせる街であることを再確認し、「感じる」ことを意識した散策コースを考え、多くの人に実際に感じてほしい
- ② 五感のどこで「感じる」のか議論し、弥彦を耳で感じてもらう散策に焦点を絞った
- ③ 四季それぞれに自然が奏でる音は豊富にあることに気づき、年間を通して耳で感じる散策の提案が可能であることがわかった

4. 今後の展開

今後は、大学生が主体的に活動し、自治体や企業の協力を得ながら、実際に足を運びたくなるような具体的な散策コースを四季それぞれ作成し、その散策をするために多くの人が弥彦を訪れるところまで継続的に取り組んでいきたい

音を聴け

新潟経営大学 経営情報学部

経営情報学科 1年

木菱 龍太、近藤 駿、佐藤 元紀



ここに至るまで

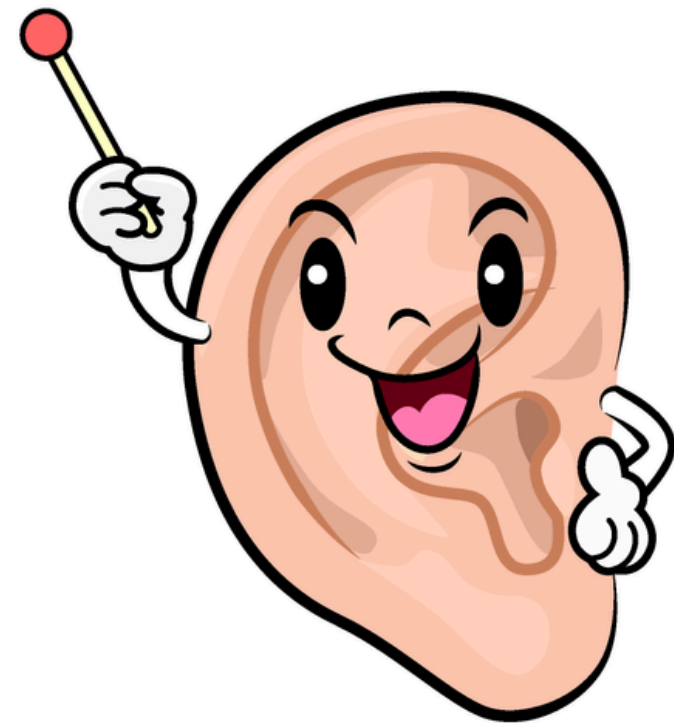
我々は雲のプレゼンテーションにインスパイアされ
“**感じる(Feel)**” というコンセプトがうまれました

||

「**音**を聴け」というテーマ

CONCEPT

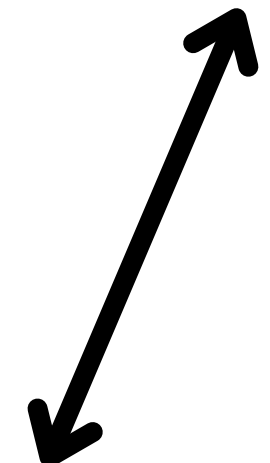
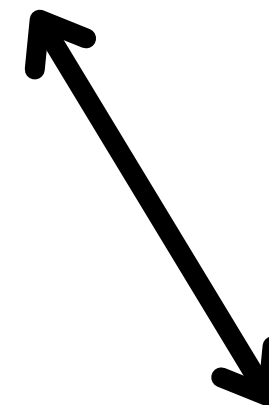
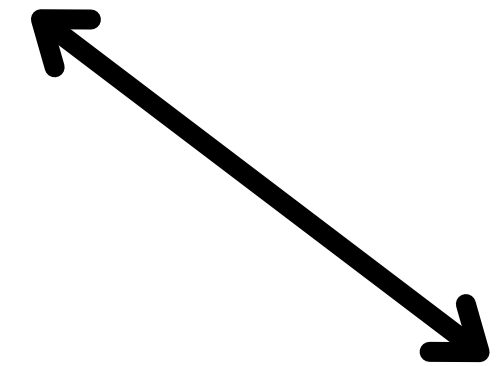
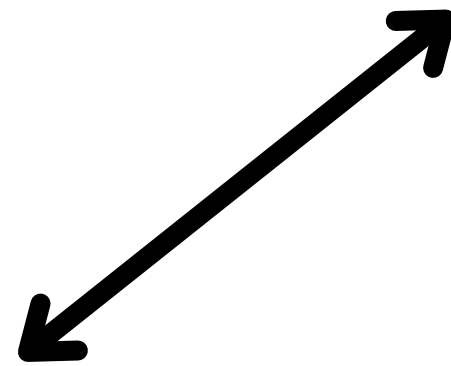
我々が思う**五感(Feel)**で楽しむ
彌彦として、耳=“**音**”に注目し
ました。



耳
EAR

体全体
BODY

脳
BRAIN



MOUTH

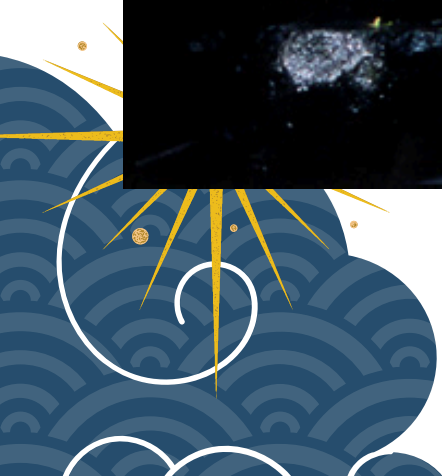
目
EYE



彌彦の音 (1)



彌彦神社の川の流れ





定番の弥彦の音



おもてなし広場の足湯



おもてなし広場の手湯







季節の音



春

桜舞う音

夏

鳴く蛙の音



秋

落葉の音



冬

雪の音



これから増やせる音

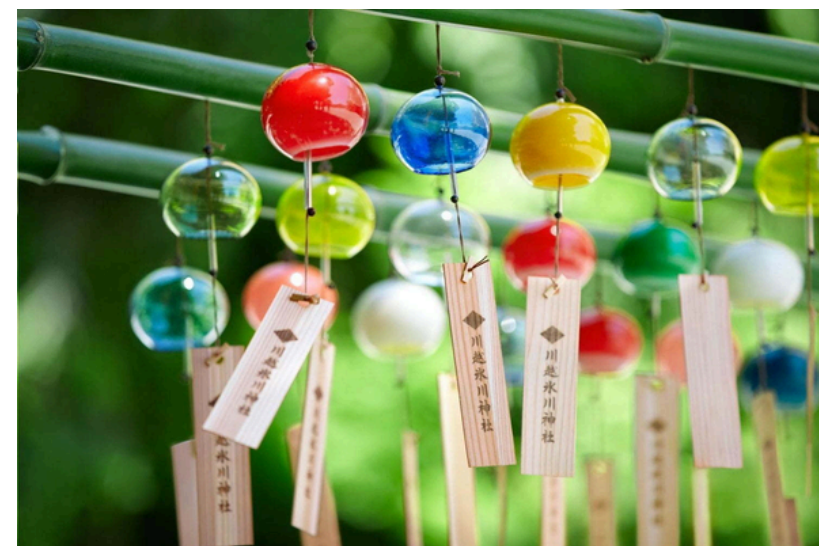


風鈴の音色

和傘の雨音

石畳の下駄

-
-
-
-



喋る鹿（新潟弁）

彌彦の新伝説



鹿の鳴き声（彌彦神社鹿）

30分待って鹿の鳴き声が聞こえたら幸せになれる。



事業案は検討中 ▶ ▶ ▶

例

加茂市の商店街とのコラボレーション

詳細は次回のプレゼンで



THANK YOU

